

庄南小4年生教室で野菜の写生会 林 清納(洋画家)さん指導

平成18年9月7日(木)午前・砺波市立庄南小学校でカイニョ倶楽部が世話をし、写生会を開いた。当初は、近くの入道家の屋敷林(カイニョ)写生会を予定していたが、前日からの大雨でやむなく、校内での野菜(ナス、スイカ、カボチャ等)の写生会となったもので、4年生35名が洋画家 林清納先生の指導を受けた。カイニョ倶楽部からアシスタントとして、5名が参加し、一緒に描き、子どもたちの真剣な勉強態度にも学んだ。

* * * * *

はじめに柏樹代表幹事がカイニョのある家での展覧会の提案が、長谷川校長先生の希望もあって直接絵の描き方教室になったことを説明。

そして校長先生は、「素晴らしい林先生に直接絵の描き方を教わるのだから、しっかりお話を聞いてください。林先生は、小学校4年生のとき絵描きさんになろうと決めたとおっしゃって見えました。大変大事な機会になるはずです」と林先生を紹介。

林先生の授業に入り、先ず写生方法と今日の授業の内容を説明。

- 絵を描くことで元気になる。楽しみをもらうために絵を描く。
- 自然をしっかりとらえ、正確に描くこと。
- 野菜は上からみて写生する。はじめの1時間はデッサンで画用紙に野菜を正確に細かく描き込む。画面いっぱい描くこと。
- あとの1時間は色をぬる。野菜のバックに線を入れ、50区画くらい作る。その余白に色をぬりこむ。色の組合せをする。どうすると美しくなるかを考え、色をいれる。
- 立って描こう。上から野菜をみて形を描いていく。
- チョークで描くので、線を失敗してもよいから、消しゴムは使わない。

「野菜には色をつけないで

バックに色を入れその組合せを楽しむ」

約1時間、子どもたちは思い思いに野菜を画面に描き込んだ。後半の作業に入る上での注意や試みの主題を林先生から説明。

- 描いた野菜には色をつけず、バックになるところの線で区画したところに色を入れる。
- 色の組合せは、隣へどんな色がくると綺麗になるか、バランス・配色を考える。同色の区画は5カ所くらいとして描く。
- 筆に水をつけず、ティッシュで水をパレットに落とし絵具を合わせる。
- 赤に白を混ぜると少し弱くなる。アイスブルーに白を混ぜるとやわらかくなる。白は色んな色を混ぜるのに役立ち、沢山の色をつくる力をもっている。

子どもたちは真剣に画面に向かい、筆を動かした。がやがやしていた教室もいつの間にか静かになり、みんなの目は輝いていた。

約1時間半で色づけが終わり、全員の作品を廊下の台紙の上に並べられ壁画ができた。35枚の絵がびっしりと並べられ全く別の感動が子どもたちをとらえ、一同まわりに立ってその出来映えをみはった。



全員の絵を並べて

「想像の世界から物を見て

自分を考える道への橋渡しの時」

<林 清納さん>

子どもたちの作品を集めた壁画の世界を見た後、終わりの集いで林先生は、次のように説明と授業の感想を話した。

○私の話しを静かに集中して聞いてくれ、大変感激した。

4年生は想像の世界から正確に物を見て自分を考えるという道への橋渡しの時であり、大変大事な学年だ。

○自分の道を決めるのも、この年の体験や出会いが大きい。

○自然に接することから学ぶ人になってほしい。

○全員の絵を集め、並べるとまた一つ素晴らしい絵になること。

色と線の組合せや、野菜のきめ細かい内容の描写を学ぶ機会になったはずで、私もみんなから新鮮な刺激をもらった

その後、担任の先生から「やったことのない素晴らしい機会ができた。

この経験を忘れず、林先生の教えも忘れないでこれからの勉強に役立てましょう」と挨拶。

柏樹代表幹事が、「また屋敷林も写生し、元気もらってください」とカイニョ倶楽部で用意した「カイニョの下敷」を代表に手渡した。

子どもの代表が「今日の出会いを胸に勉強にはげみます」と応えて昼過ぎに半日の課外授業を終えた。

この模様をケーブルテレビが夕方放映し、北日本新聞が翌日朝刊で報道した。



全員の写生態度



各人に指導中

スギ枯れやアメシロ被害が

今夏、砺波平野のスギに 10 米余りの大木の真中から下の全枝が赤く枯れる現象が発生した。南砺波・軸屋と上野の家から相談を受けた。その状態は 7 月下旬から 8 月中旬、異常雨天のあと異常高温が続いている最中——原因は虫なのか、生理障害なのか不明なまま終わったが、その後、全木が枯れるというまでには至っていない。元気を回復させるため、ウッドエース（肥料）を根元に埋め込むことを勧めた。

また、8 月下旬から砺波市中心部から北部の広葉樹にアメリカシロヒトリによる被害が目立った。白い葉脈のみになる現象で、カキ、サクラ、クルミ等は全滅状態になった。街路樹でもモミジバカエデ、プラタナスが目立った。これは昨夏にも発生した区域で、発生直後の集中消毒が大事である。（か）